

第49回VE全国大会

日本VE協会会長開会挨拶

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会
会長

近藤 史朗



皆様おはようございます。会長の近藤でございます。本日はこのように多くの方々にご参加いただき、49回目になる「VE全国大会」をかくも盛大に開催できますことを大変嬉しく思っております。

このように多くの方々がVEに関心を寄せていただき、会場まで足を運んでくださるということは、VEに対する期待の表れでございます。身の引き締まる思いでございます。

高い所からで恐縮でございますが、ご参加いただきました皆様方に厚くお礼を申し上げます。おかげさまで、今回も全国各地からご参加をいただいております。2日間でのべ800名という参加者が見込まれているようでございます。お忙しい中のご参加、誠にありがとうございます。

また、今回も海外から多くのご参加をいただいております。アメリカ、インド、中国、韓国、シリアの5ヶ国からお越しいただきました。皆様、はるばる海外からお越しの方々を拍手でお迎えください。(拍手)

そして、本日、栄えある協会顕彰を受賞される皆様、誠におめでとうございます。VEの実践・活用、そして普及にご尽力いただいておりますことに感謝申し上げますとともに、心よりお慶び申し上げます。

そして、本大会の開催にあたり、ご後援いただきました各団体の皆様、企画・運営にあたり、ご支援、ご協力をいただきました多くの皆様方にも、この場を借りて厚くお礼を申し上げたいと存じます。

さて、今回の大会テーマは『VEサイコウ』となっております。後ほど、赤城実行委員長からご紹介があると思いますが、『VEサイコウ』には再び盛んにするという「再興」と、考えなおすという意味の「再考」

という二つの意味が込められているということでございます。

『以前はVE活動が活発だったが、ここ最近では火になっている』という企業はVE再起動のスイッチを、それから『VEの導入・展開方法や位置づけで悩んでいる』という企業には「VEとは何か」ということについての示唆が得られる。そのような場にしたいということから、『VEサイコウ』を大会スローガンに掲げたと伺っております。

赤城さんを始めとする関係者の皆さんがアイデアを出し合い、『参加して良かった』『手伝って良かった』『応援して良かった』と思っただけのような大会を目指し、およそ半年間の年月をかけて企画を練り上げ、今日まで熱心に準備を進めてくださいました。この場をお借りして心からお礼を申し上げます。

今回のプログラムですが、私が日本VE協会の会長に就任した際に提唱させていただいた「VEの原点回帰」、それから「マネジメントプロセスの改革」、「VE的経営の実践」ということについても企画に盛り込んでくださったと聞いております。

特に今回は、フードサービス業界や教育分野への展開など、VE適用対象の広がりを感じさせるようなコンテンツが前面に出ているというふうにも伺っております。現地企業への普及・定着といったVEのグローバル展開に関するものが目立っているように思います。

そういった「VEの今」を感じていただけるプログラムに加え、今回も大会テーマにマッチした講演を始め、自社の活動に活用いただくための実践事例、研究論文など、多彩なプログラムが組まれています。

本大会のご参加を通じ、VEの実践活動に役立つ「ヒント」や「気付き」、そして出会いが今後の活動推進の原動力となれば、主催者としてこれほど嬉しいことはありません。

一言、VEに関して申し上げますと、色々な所でお願いをされて講演をするのですが、必ずVEの話をするようにしております。経営的な観点、あるいはイノベーションの観点から見た時のVEの位置付け

の大事さを常に訴えています。そういう意味もあって、『VEサイコウ』というスローガンは、本当に時機を得たスローガンになっていると思います。

赤城さん、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今回も盛りだくさんのプログラムになっております。ご参加の皆様と運営に携わる皆様が一体となって、熱気のある、そして実りのある大会にしていきたいと思ひます。2日間、どうぞよろしくお願ひいたします。
(拍手)